



<中心市街地のまちづくり履歴>

まちを舞台に

～いせさき市民まちづくりの軌跡～



< 中心市街地のまちづくり履歴 >

まちを舞台に

～いせさき市民まちづくりの軌跡～

人口 21 万都市として発展を続けている伊勢崎市。さらなる発展が期待されるなか、これからの人口減少社会と少子高齢化は避けられません。これから求められる“まちの姿”に対し、より質の高い成熟した都市に向けた取り組みが欠かせない要素となります。これまでに積み上げてきた都市基盤整備のもとで街の景観や中心市街地の賑わいを先導する都市の魅力向上に必要なソフト活用に重点を移すことがいっそう重要となり自然の流れであると考えます。

このような中で、市民まちづくり活動の視点からこれまでを振り返り、取り組み経過を整理することは今後のまちづくりに有益なことと考えます。

しかし、まちづくり活動は多種多様な分野にわたることから、これまでの自らのまちづくり活動を中心に、当時の記録をまとめ、あわせて現在までの様子を追記し編集しました。

平成時代の市民まちづくり活動が共有され、活性化されることを願い本冊子をまとめました。

< 掲載文目次 >

- ・いせさき“まちづくり”の歩み ～伊勢崎中心市街地・市民主体のまちづくりを俯瞰する～ …… (2)
- ・伊勢崎市の街づくり ～市街地整備の歩み～ …… (5)
- ・伊勢崎のまちづくり私案 ～いせさき歴史回廊の提案～ …… (7)
- ・街づくり市民ゼミナール ～街はみんなのギャラリーだ～ …… (11)
- ・第 16 回 地域づくり団体全国研修交流会・群馬大会について …… (14)
- ・ウオークギャラリーと音楽の夕べ ～いせさき再発見～ …… (15)
- ・Isesaki タウンギャラリー ～黒羽根内科医院旧館移転記念事業～ …… (17)
- ・光のページェント いせさき燈華会 ～地域文化の創造を目指して～ …… (20)
- ・いせさき街並み研究会 ～まちづくりについて考え、できることから行動する～ …… (25)
- ・いせさき明治館 100 年物語 ～未来へ向けて建築 100 年を寿ぐ～ …… (27)
- ・いせさき銘仙と明治館 ～“銘仙の街”再興と市民まちづくり～ …… (30)
- ・(参考資料) まちなか・まちづくり年表 …… (33)

伊勢崎市の中心市街地では、様々な市民まちづくり活動が行われてきました。

この稿では、伊勢崎中心市街地での市民主体のまちづくりの歩みを俯瞰します。

1. 市民まちづくり事始め

—1985（S60）年～1994（H6）年まで—

伊勢崎市は終戦前夜の空襲により中心市街地の約4割を焼失し終戦を迎え戦災復興都市に指定されますが、戦災復興都市計画事業は断念され、以後半世紀を経るまで中心市街地の“都市づくり”は見送られました。

1970年代より都市化の進展に対応した“都市づくり”は中心市街地に隣接する地区で新市街地形成が矢継ぎ早に動き出します。一方、中心市街地では1975（S50）年より本町通りを中心に商店街の再生に向けた中央土地区画整理事業が開始され、共同店舗となるSOAビルの建設や商店街の更新が行われたものの、伊勢崎駅周辺の本格的な都市づくりは1993（H5）年の伊勢崎駅周辺総合開発事務所の設置まで待つこととなります。

1980年代になると市西部地域の伊勢崎オートレース場周辺をはじめとする新市街地の形成が加速するなか、中心市街地では商店街の振興とは別に市民による“まちづくり”活動が始まります。

1985（S60）年に伊勢崎における市民まちづくりの始まりとなる市民活動団体「**街づくり市民ゼミナール**」（→P11）が結成されます。5年に及ぶ各種のまちづくり学習の期間



を経るなか、活動支援団体の（社）伊勢崎青年会議所が創設25周年記念事業の一環として1988（S63）年に華蔵寺公園内に建てた11基の石碑案内板設置に協力するなど具体的な成果が見られます。

1990（H2）年の伊勢崎市政50周年には、街のシンボルである旧時報鐘楼の修復が行われました。街づくり市民ゼミナールはこの年より5年間、商店街のショーウィンドウに版画作品を展示するイベント「ストリートギャラリー」を開催し“まちづくり”の実践が始まりました。

2. 伊勢崎再発見と市民まちづくり

—1995（H7）年～2004（H16）年まで—

1995（H7）年1月に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに市民の災害ボランティアが活躍したこの年は「ボランティア元年」と呼ばれ、その後の1998（H10）年12月には特定非営利活動促進法（NPO法）が施行されるなど市民活動を取り巻く環境が整うなか、同年7月には「群馬県地域づくり協議会」が発足しました。

この頃、街づくり市民ゼミナールの活動は、これまでの実践経験をもとに次のステージに移行します。伊勢崎再発見をテーマにまちなかの歴史資産や地元出身の芸術作家の作品展示、伊勢崎神社境内での音楽会など、中心市街地を舞台に面的に拡大した「**ウォークギャラリーと音楽のタベ**」（→P15）の開催へと発展しました。まち歩きと文化活動を組み合わせたイベントとして、また、地域資産を活用したまちづくり活動として10年に亘る継続により市民にも親しまれる地域づくり活動が展開されました。



2002（H14）年2月に、**第16回地域づくり団体全国研修交流会・群馬大会**（→P14）が開催され、群馬県地域

づくり協議会に加盟する市民団体が一致団結し、県内各地で全国の地域づくりに取り組む団体と交流を深めるとともに、県内の地域団体相互の交流も促進されました。

これらの経験共有を背景に同年11月、14の市民団体



が連携した黒羽根内科医院旧館移転記念事業「Isesakiタウンぎゃらりー」(→P17)が開

催されその後の伊勢崎まちなかのまちづくり活動の画期となりました。

この年には伊勢崎の観光ガイドに取り組む「伊勢崎まちガイド」の設立や、いせさき初市(1月11日)で焼きまんじゅう愛好会による「上州焼饅祭」が開始されます。



2003(H15)年には市内の建築士たちが組織し職能を活かしたまちづくり団体「いせさき街並み研究会」(→P25)の活動も始まります。建物調査の成果をもとに、いせさき明治館・旧時報鐘楼・旧伊勢崎駅舎などの紙模型を製作し、親子を対

象とした「まち歩き」や紙模型作りイベントの開催により地域の歴史の大切さを伝えるとともに、歴史資産を活用したまちづくり提案などが行なわれています。

3. いせさき明治館と市民まちづくり

—2005(H17)年~2014(H26)年まで—

4市町村の合併により新しい伊勢崎市が誕生した2005(H17)年には「Isesakiタウンぎゃらりー」開催以降3年間を要した保存修復事業が完了し、市民により愛称として命名された「いせさき明治館」がまちづくり拠点

としてオープンしました。

また、市町村合併を記念した伊勢崎市誕生記念事業として市民主体のイベント「いせさき燈華会」(→P20)が開

催され、ろうそくの灯りとともに歴史資産や地域資源を活用した企画は多くの市



民に親しまれ、伊勢崎を代表するイベントの一つに育っています。

2007(H19)年から3回の開催で終了したものの、

市内の若者が中心となって開催した「いせさきアーティストフェスタ in 路地裏」は、昭和のノスタルジーを感じさせるイベントとして好評を博しました。

2010(H22)年には伊勢崎を代表する伝統工芸品・伊勢崎緋(いせさき銘仙)による地域の活性化を目指す「いせさき銘仙の会」が発足し、銘仙の魅力をPRするとともに、「銘仙の日」(3月第一土曜日)の制定や銘仙ファッションショーの開催などその動向は注目を集めています。



これら多様な活動は市民団体相互の人的繋がりへと広がり、2012(H24)年には、「いせさき明治館建築100年を祝うイベント」いせさき明治館100年物語“(→P27)の開催へと繋がりました。

4. 市民まちづくりの新たな展開

—2015(H27)年以降—

これまで約30年間にわたり市民まちづくり活動が展開されてきたが、この間、行政側では伊勢崎駅周辺総合開発事業が着々と進められ、伊勢崎駅前周辺を重点に都市基

盤整備が進みました。

2015（H27）年に「伊勢崎駅周辺鉄道連続立体交差事業」が完成し、鉄道により分断されていた市街地の一体化が実現しました。

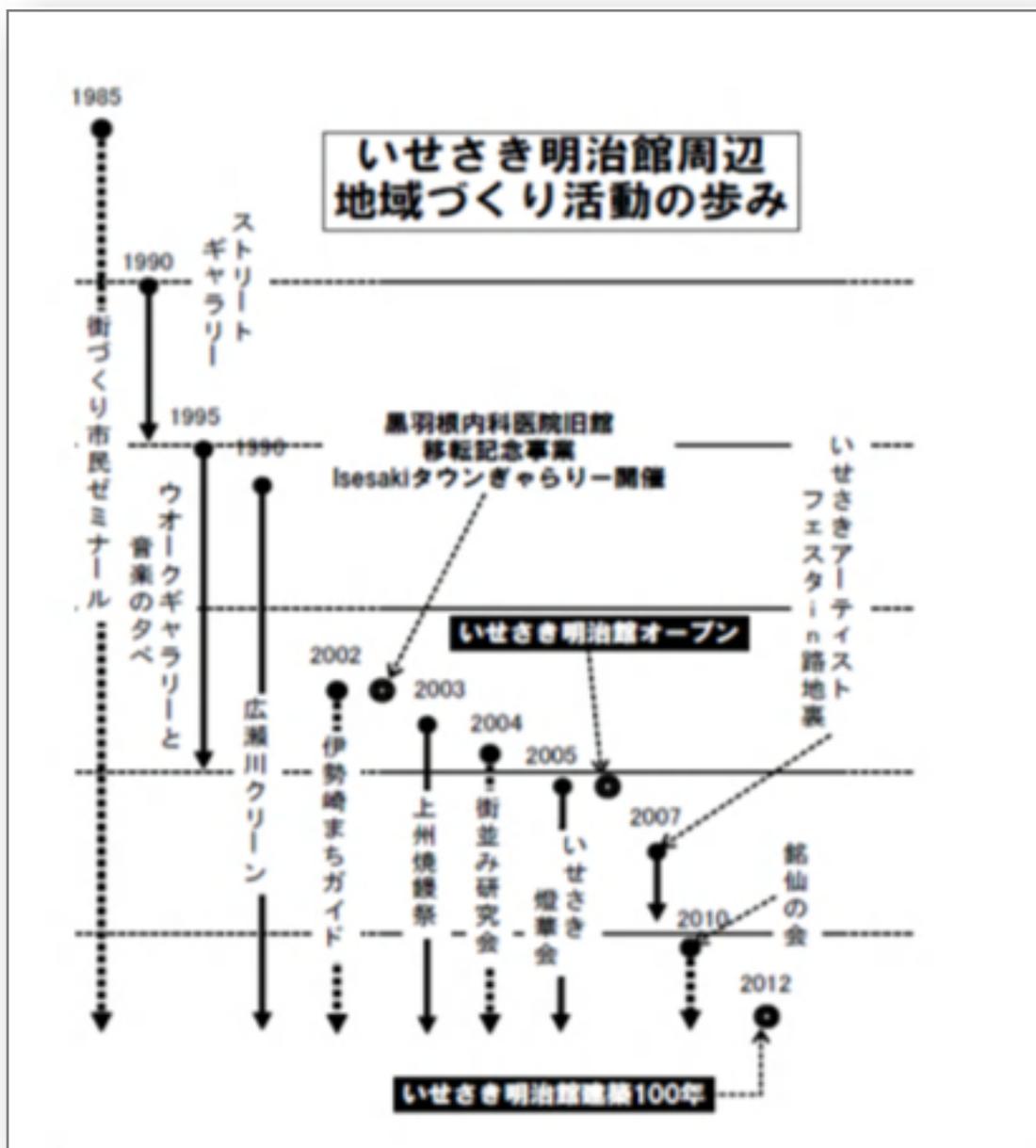
また、伊勢崎駅前にはベシア駅前店の出店と併せて伊勢崎市が運営する「駅前インフォメーションセンター」がオープンし、まちの案内と情報発信を始めました。

続く2017（H29）年には伊勢崎駅の南北両「駅前広場」が、翌年には「大手町パティオ」が完成するなど伊勢崎の玄関口の整備が整うと同時に、賑わい創出に向けた四季折々のイベントも開催されています。

一方、市民まちづくりは、2016（H28）年に「21世紀銘仙プロジェクト」が完成するとともに「いせさき明治館」を拠点に“銘仙”に関連した活動（いせさき銘仙と明治館→P30）が注目されています。

また、伊勢崎駅前広場の活用や伊勢崎駅周辺の都市づくりと連携した市民まちづくりの新たな展開が期待されています。（かさほら みのる）

※おっ！まっちー Vol.72（2012年7月1日、群馬県都市計画課発行）掲載の「いせさき明治館100年物語“に向けて”」をもとに再編集しました。



伊勢崎市の街づくり

～市街地整備の歩み～

伊勢崎の都市づくりの歩みを概観することで、
中心市街地の再生における市民まちづくりの役割を確認します。

1 はじめに

群馬県伊勢崎市は関東平野の北西部に位置し、群馬の郷土かるた「上毛かるた」では“銘仙織り出す伊勢崎市”と詠まれ、かつては織物産業で栄えましたが、現在では製造品出荷額が約1兆2千億円となる工業都市として発展を続けています。

平成17年1月に4市町村（伊勢崎市13.3万人、赤堀町1.9万人、東村2.3万人、境町3.2万人）の合併により人口20万人の都市となり、平成17年国勢調査人口202,447人に対し、平成27年は208,814人と人口増加が続く元気な都市で、伊勢崎市第二次総合計画で目指す「夢ふくらみ 安心して暮らせる 元気都市 いせさき」の実現に取り組んでいます。



2 街づくりの歩み

伊勢崎市は終戦前夜の空襲によりJR両毛線伊勢崎駅の南に形成されていた中心市街地の約4割を焼失し終戦を迎えました。翌年、戦災復興都市に指定されますが、昭和22年9月のカスリン台風による水害が重なったことも影響して戦災復興都市計画事業は断念され、以後半世紀を得るまで中心市街地の整備は見送られました。

一方、戦後の経済発展や人口増加に対応した都市の拡大に向けた都市基盤整備は着実に進められ、現在までに市街化区域（3,304ha）の約6割（49地区1,964ha）で行われた区画整理は本市の“街づくり”に大きく貢献しています。

本市における戦後の本格的な街づくりは、昭和32年から中心市街地に隣接する東武伊勢崎線新伊勢崎駅周辺の約79haで着手した東部土地区画整理事業に始まります。その後、昭和46年の“線引き”を機に区画整理による新市街地整備が矢継ぎ早に動き出し“線引き”後の15年間で27地区1,053ha（うち、組合施行面積が約7割を占める）が、続く平成7年までのバブル経済を挟んだ10年間では市街化区域の拡大（約270ha）を伴う更なる新市街地形成に向け9地区300ha（組合施行面積が約6割）を着手するなど積極的に都市整備を進めました。

中でも既成市街地に隣接する西部地区では昭和57・58年に4地区478haを着手し、先行する地区と合わせて約540ha（組合施行面積が約8割）となる一団の大規模開発が進められ、伊勢崎オートレース場（S51年開場）周辺では大規模小売店舗をはじめとする商業集積と人口増加により、本市の発展を牽引するとともに商業拠点の形成は都市の構造にも大きな影響を及ぼしています。



また、他の新市街地でも大規模小売店舗の進出が相次ぎ、その影響は中心商店街の衰退を招き中心市街地再生に向けた動きを加速させました。

中心市街地では、商店街の再生を目指し中央土地区画整理事業（19ha、S50～H28）が行われますが、本格的な市街地再生に向け平成5年に伊勢崎駅周辺総合開発事務所を開設し、以後、区画整理（2地区45ha）やJR両毛線（2.5km区間）及び東武伊勢崎線（2.2km区間）の鉄道連続立体交差事業（県施行・H27年度完了）、密集住宅市街地整備促進事業（25ha、270戸の建物除却）を進めています。

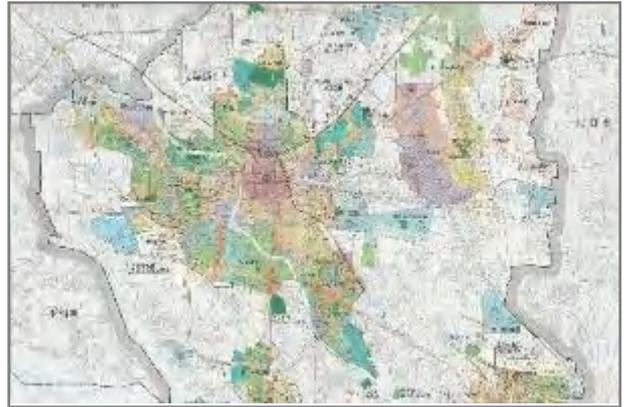
現在、伊勢崎駅南北の駅前広場（H29年完成）とその周辺整備を重点的に進めるとともに南口駅前広場や駅前インフォメーションセンターでは情報発信やイベント等の定期開催により“まちなか”への来訪者の増加と賑わい創出、居住促進に向けた取り組みを行っています。



3 “まとまり”のある都市づくりへ

伊勢崎市は市域139.44km²の全てが都市計画区域で、一つの線引き区域（9,654ha、市域の約7割）と2つの非線引き区域（4,290ha）が併存します。

土地利用規制の緩い非線引き区域の一部では用途地域や特定用途制限地域を指定していますが、住宅の適切な立地誘導には課題が残されています。



本市は未だ人口減少を迎えていませんが、各地区の状況を見ると人口の増減や高齢化率の違い、過去の歴史を背景とした異なる土地利用規制に起因する課題など、その解決には都市基盤整備による街づくりから、将来を見据えた都市の維持管理に必要な施策への転換が求められています。



昨年度より“まとまり”のある都市づくりを目指して立地適正化計画の策定に着手し、これまでに培った区画整理をはじめとした都市基盤整備を活かしつつ、良好な景観形成とともに心豊かな暮らしと魅力ある都市づくりを進めています。（かさらは むのる）

（出典）「伊勢崎市の街づくり」

区画整理 2017年11月号
（公益社団法人 街づくり区画整理協会 発行）

※本文掲載に際し、一部を追加・削除した。

伊勢崎のまちづくり私案

～いせさき歴史回廊の提案～

伊勢崎市では職員の資質向上をめざし、自主研究グループによる研修活動が推奨されています。ここでは自主研究グループ「広瀬川を考える会」による研究報告「広瀬川を軸としたまちづくりについて ～歴史回廊ゾーン編～」をもとに文化遺産の活用と地域づくりへの私案を提示します。

はじめに

伊勢崎市は県内の中核都市として発展し、近年は西部地域をはじめ、都市化が急激に進みつつあります。今こそ市民が共有できる「伊勢崎らしさ」を求めた地域づくりが必要となっています。

「伊勢崎らしさ」を考えると、ふるさと「いせさき」の顔は赤城山や広瀬川の景色とともに、祭りや歴史、文化遺産などが蓄積している中心市街地に求めることができます。

ここでは、世代を超えた「心に残る風景（原風景）」を共有できるように、町中に点在する文化遺産を表舞台に登場させ、伊勢崎の歴史と文化を概観できる回遊性を持った「いせさき歴史回廊」を提案します。

歴史回廊の背景を探る

・伊勢崎のまちづくりと同聚院の文化財

伊勢崎のまちづくりを考えると、その機転を江戸時代初期の伊勢崎藩成立に求めることが出来ます。

伊勢崎陣屋（藩庁）とその町並みは初代伊勢崎藩主の稲垣長茂による町割りから始まりますが、拠点とした地は現在の同聚院（曲輪町）でした。

ここには市指定重要文化財の「武家門」や代々年寄（家老）職を務めた「関當義・重嶽父子の墓」（市指定史跡）、市天然記念物の「大カヤ」ほか多くの文化財が残っています。なかでも「大カヤ」は約六百年のあいだ伊勢崎の歴史を見守っていることを思い合わせると一層の親しみが湧きます。

江戸時代からの町並みは、戦後に戦災復興事業がなされなかったこともあり、当時の道路形態が随所に残り、まちの歴史とともに現在へ受け継がれているのがわかります。このことは伊勢崎市立図書館蔵の寛政10年(1798)の

「伊勢崎町絵図」からも検証でき、雁木折りのクランク道路や路地などを確認できます。このような道路（路地）形態も後世へ伝える文化資産の一つであるとの認識が欲しいものです。

・伊勢崎河岸と河岸問屋

伊勢崎藩と江戸を結ぶ物流拠点は「伊勢崎河岸」で、現在の広瀬川・永久橋のたもとにありました。

ここで河岸問屋を営んだ「武孫平宅」は、茅葺き屋根の当時の姿を保っています。また、武さん宅の入り口には航路の安全を願った文政2年(1819)建立の「伊勢崎河岸の石灯笼」（市重要文化財）が移転し残されています。

他にも、嘉永5年(1852)建立の「馬頭観音塔」や馬坂と呼ばれた路地も残り、この周辺が、「伊勢崎河岸」の文化や舟運史を概観できる貴重な場所であることがわかります。

なお、伊勢崎河岸は明治22年(1889)の両毛線開通でその役目を終えました。

・相川考古館の埴輪と茶室



相川考古館（三光町）は国指定重要文化財の「琴を弾く埴輪」「武人埴輪」など四体の人物埴輪が保管されて、全国的に有名で多くの方が訪れています。このほかに、関重嶽の「伊勢崎風土記」や「古器図説」をはじめ、市内出土の考古遺物も保管・展示され伊勢崎の歴史を語る貴重な博物館です。この考古館の建物は脇本陣として使われた貴

重なる建物です。また、県内最古の木造茶室「觴華庵」（県重文）もあり、これらの建築物からは歴史の息吹を感じ取ることができます。

・銘仙織り出す伊勢崎市

明治から昭和にかけて伊勢崎銘仙は隆盛を迎えますが、その時代の面影は近代建築物からも偲ぶことができます。

なかでも、擬洋風の木造近代建築物「黒羽根内科医院（旧館）」（明治37年築、本町）は本町通りに面して建ち、細部にわたる繊細な造りからはその時代の精神を垣間見ることができます。



また、県内最古の鉄筋コンクリート造建造物「旧時報鐘楼」（大正4年造、曲輪町）は煉瓦張りとの優雅な曲線による大正ロマンあふれる雄姿を現在に伝えています。まちのシンボルとして最もふさわしい建造物です。

さらに、伊勢崎郵便局の向かいに見える情緒あふれる近代和風の建物は旧町田醤油店で、邦楽家・町田佳声の生家です。この建物は市民の心に潤いと安らぎを感じさせられます。

これらの文化遺産をいかに地域づくりに活用し、次代へ伝えていくのかが、いま問われています。

伊勢崎らしさを求めて

・歴史の道の活用 ～路地と道路愛称～

既に述べたように、伊勢崎藩当時の道路形態が現在まで残ることから「歴史の道（路地）」をいかに地域づくりに活用するかが大きな課題です。

その一つに、道路愛称によるまちへの認識を深めることができます。

多くの市民に親しまれている道路名に「本町通り」（本町）や「西町通り」（三光町）があります。また、市による道路愛称名の市民公募では「武家門通り」と「呑龍通り」

が命名され、市民から好評を得ています。

ここで提言したいのは、伊勢崎の地名の由来である広瀬川・新橋への路地「伊勢の前通り」や相川考古館から赤石稲荷へ通じる路地、伊勢崎陣屋の外郭の一部である雁木折りの路地など、歴史や文化遺産と連携できるような道に道路愛称をつけるとともに景観整備を組み合わせた施策展開を図ることで地域に一層の親しみを持つことができると思います。

また、要所に街の変遷が理解されるよう解説版の設置も併せることにより「歴史の道（路地）」を将来に伝えることも可能となります。

・既存施設の活用 ～市立図書館・織物会館～

この地域には歴史資産のほか市立図書館や織物会館もあり、「伊勢崎らしさ」の形成には、これら既存施設のさらなる活用を図ることが求められます。

まず、伊勢崎市立図書館です。

ここには、総合案内施設としての位置づけを求めます。

最近では展示室の活用が図られつつありますが、ほかに情報機器（パソコン等）や視聴覚機器を活用し、この地域の文化遺産活用の情報発信基地として、また、歴史回廊散策の案内施設として利用されることが望まれます。市立図書館はそれに最もふさわしい立地条件をそなえた既存施設であることは言うまでもありません。

もう一つは織物会館です。

銘仙（緋）は伊勢崎の歴史を振り返るときに欠くことのできないものです。

昭和五十年には伝統工芸品「伊勢崎緋」として国の指定を受けました。また、年に数回、伝統工芸士の指導による織物体験教室も行われていますが、銘仙の伝統を受け継ぐ施設としてさらなる機能の充実が求められます。

伊勢崎銘仙の伝統を市民共有の財産として、また、観光資源として活用するには、その歴史や織物作品の収集・保管・展示といった「織物（銘仙）資料館」的機能の付加と、体験学習や生涯学習の一層の充実による活性化が求められます。

既存施設の活用は、ソフト施策の工夫により低コストと早期導入が可能であり「伊勢崎らしさ」の形成に不可欠な要素であると考えます。

・文化遺産の活用 ～時報鐘楼の復活を～

相川考古館のように文化遺産が有効に活用されているものもありますが、活用までに至らないものもあります。

ここでは、文化遺産を地域づくりの資源として考え、その活用方を提言します。

旧時報鐘楼は文化財として指定・保存されていますが、有効活用がなされているとは言い難く、この活用方策について考えます。

その一つとして本来の機能「時報鐘楼」としての音の復活です。古くより日本ではお寺の鐘が、また、西洋では協



会のベルの音が時報の役割以上に「音の景観」として暮らしに潤いを与えてきたことがわかります。

「時報鐘楼の復活」こそ、伊勢崎の地域づくりに最もふさわしい文化遺産の活用施策と考えます。さらに、ライトアップの導入による夜間景観の演出

や市民参加による花壇づくりなどの周辺整備を行うことで「まちのシンボル」として、また、親しみのある生きた文化財としてまちの魅力向上に大いに役立つことと思います。

・新たな施設の設置 ～伊勢崎河岸周辺の整備～

今回の私案は既存施設を活用したソフト面による提言を基本に置いています。最小限度の施設整備も必要となります。

ここでは、伊勢崎河岸の文化遺産をより活用できるような提言を行います。

「伊勢崎河岸と河岸問屋」の項でふれたように、この地域には河岸文化を考えるにふさわしい文化遺産がありますが、これらを一体的にとらえるための方策として案内施設が求められます。

ここでは、馬頭観音塔周辺に散策のための休憩施設を兼ねたポケットパークを設置し、ここにベンチ・水飲みのほか河岸や舟運に関する案内板の設置や隣接する馬坂の路



地整備を提案します。これらを通してこの一帯が伊勢崎河岸の文化を概観できる場所となるでしょう。

歴史回廊への誘い

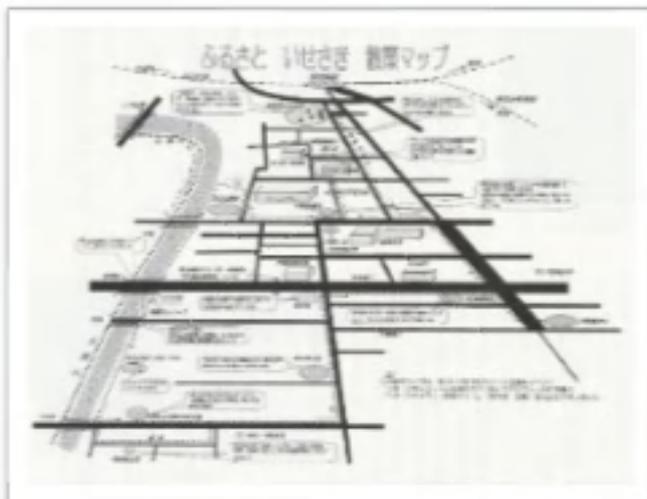
これまで、歴史回廊の背景といせさきらしさを求めた提言を行いましたが、この場所は現在でも「ふるさと散策」を楽しむことができます。

ここでは「ふるさといせさき散策マップ」を紹介し、散策案内に代えさせていただきます。

・歩くとわかる「まち」の魅力

ここ数年、市民で組織・運営する「街づくり市民ゼミナール」により、ふるさと再発見の取り組みが行われています。散策マップを片手に、まちの散策と美術・工芸作品の鑑賞を組み合わせ、スタンプラリーを取り入れたイベント「ウォークギャラリーと音楽のタベ」が定着しつつあります。参加者の声からは、歩くことにより車社会の中で見落とされてしまった「まちを知ること」の喜びや、身近な文化遺産や路地の再発見とともに歴史の息吹を肌で感じられる様子が感動を込めて寄せられています。

自分の住む地域を知ることはまちづくりの第一歩です。



文化遺産を活用することで尚一層、地域に愛着が湧き、まちに誇りが持てるよう、「伊勢崎のまちづくり私案」の提示を試みました。これを機会に伊勢崎の散策を楽しんでいただけたら幸いです。

なお、文中の挿し絵は「ふるさと伊勢崎十二景」(斉藤茂 画)から使用させていただきました。

(伊勢崎市職員自主研究グループ「広瀬川を考える会」は平成5～7年度において鈴木荒一、笠原実、柳澤幸久、小此木利夫の四名で構成し研究活動を行いました。)

(出典) ぐんま地域文化第14号

(2000(平成12)年5月19日、

(財)ぐんま地域文化振興会発行)

～歴史回廊ゾーンその後の状況～



この地区を舞台に「まち歩き」の取り組みは街づくり市民ゼミナル主催の「ウオークギャラリーと音楽のタベ」が1995(H7)年から2004(H16)年までの10年間継続開催されました。

2005(H17)年には、いせさき街並み研究会が『いせさきまちなか散策マップ』を作成・発行。伊勢崎まちガイドによる観光ガイドも行われました。



その後、2011(H23)年には赤石まちづくりワークショップが開催され、『「赤石」まちめぐり散策マップ』の作成といせさき明治館周辺に散策マップと連携した案内看板が設けられ、まち歩きによる“ふるさと伊勢崎再発見”の取り組みが広がりました。

また、旧時報鐘楼は赤石楽舎の建設とともに広場整備(2009(H21)年3月



完成)により常設のライトアップ施設が設置され、いせさき燈華会などのイベントに際しライトアップによる歴史資産の活用が図られています。

「伊勢崎銘仙」はいせさき燈華会など市民イベントに際し各種企画展示に活用されるなか、2009(H21)年の銘仙保存実態調査や「思い出の伊勢崎銘仙展」(共に伊勢崎市主催)などによる銘仙再発見の動きを契機に、2010(H22)年「いせさき銘仙の会」発足、2012(H24)年「いせさき銘仙の日」

(3月第一土曜日)の制定へと発展し、これ以降始まったいせさき明治館での銘仙展示はこれまでに30回を超える企画展が開催されるなど、多くの銘仙ファンの獲得と来場者の増加など貴重な観光施設に育ちつつあります。



2016(H28)年には市民有志による『21世紀銘仙プロジェクト～いせさき併用緋の復活～』が進められるなど「銘仙の街いせさき」に熱い視線が注がれています。



〈まちづくり団体① 1985年〜〉

街づくり市民ゼミナール

～街はみんなのギャラリーだ！～

◎街はみんなのギャラリーだ

「街づくり市民ゼミナール」は、伊勢崎市の中心市街地を拠点に活動する市民主体の地域づくり団体で、1985（S60）年に結成、今年で18年目を迎えます。会員は約60名、職業は会社員・自営業・公務員・主婦など多様な市民から構成され、敢えて会則は作らず一人一人の個性と能力を活かした運営方法を心がけ、楽しみながら活動をしています。

【活動の歴史】

活動の歴史を振り返ったとき、伊勢崎青年会議所の支援のもとで活動した結成からの10年間と、市民活動団体として立ち立ちし現在へと続く7年間の活動に大別できます。

○結成からの10年間

当会結成のきっかけは、伊勢崎青年会議所が作成した「地域環境指標」を活かすことを目指し上武退学と連携して開催した「市民公開講座」にあります。受講後、グループディスカッションが行われ、各人の感想や疑問、気付いた事等を互いに話し合うことで人間関係が深まりました。講座終了後、参加した主婦や市職員、会社員、自営業者等の有志が「このまま終わりにするのはもったいない、講座の成果を活かしたい」と結集、結成当時は「自分たちが地域の事をいかに知らないか」との自覚のもと「好きです伊勢崎」をキャッチフレーズの総合的に学びはじめました。その後、自己満足に陥らないように「街づくりに対する市民意識のレベルアップ」を目標とし、会員が時々の興味ある分野でいくつかの班に分かれて活動を進めました。

「美術班」は伊勢崎の文化・芸術をテーマに活動し「人が歩いていない商店街に賑わいを」「街は美術館」を合言葉に“ストリートギャラリー”を5回にわたり開催しました。これは、商店街のショーウィンドウに日本の第一線で活躍する版画家の作品を展示し、また、美術評論家の針生

一郎氏の講演や“街づくりと絵画”・“地方公立美術館はどうあるべきか”をテーマにシンポジウムも開催しました。されに、サキソフーン四重奏団の演奏会も恒例となりました。ストリートギャラリーは、街づくり市民ゼミナールの中核イベントとなり今に続く“ウオークギャラリーと運額のタベ”の母体となっています。活動の原動力は女性会員の芸術への好奇心と渴望からで、これからの活動を通じて地域を愛する心が育まれてきました。

「歴史を考える班」はのちに“銘仙の街・いせさき”にふさわしく、織物の未来を考える「糸へんの班」へと発展しました。また、「環境の班」は一時期「市民の森を語る班」と名称を変えつつも、主要河川の定点写真撮影や環境について継続した研究活動が進められました。

「ヴィジョン21班」は後に「糸へんの班」と共に「明日のいせさき」を考える班へと統合し、伊勢崎駅周辺開発事業など中心市街地の課題について学習を重ねました。更には「環境の班」とも統合し「I THINK いせさき班」となり、これまでの活動成果を基に“川についての対話集会”や“広瀬川ラブリバー勉強会”などを進めました。現在一部開園されている「ラブリバー親水公園うぬぎ」の計画段階から市との意見交換も行われ「コナラ林」の保全を実現しました。これらは、伊勢崎市における市民参加による計画づくりの先駆けとなり、まちづくりを担う市民活動団体として行政側にも認知されはじめたことが窺えます。

○11年目から現在へ

結成から10年の活動成果を機に、班別活動を改め会員が一体化した活動へと衣替えを行いました。これまでの伊勢崎青年会議所による支援から“独立”し、まちづくりを担う「地域づくり団体」としての実践活動が本格的に始まりました。

活動の方向性も従来の“学び”による市民意識の向上から地域に根ざした実践活動に重点を移し、『地域づくりを

担う「汗をかく市民・行動する市民」を実践し、「完成あ



る市民で育てるまちづくり」を目標に、より広範囲の市民ネットワーク

構築や行政との緩やかな連携と交流による市民主導のまちづくり活動』を目指した各種活動を展開しています。

【活動の紹介】

年間の主な活動は、5月下旬の“開講式”で一年が始まります。まちづくり講演会の開催と、終了後は講師を囲み懇親会をします。



六月中旬には各地の美術館やまちづくり先進地の視察と会員相互の交流を深

める“ミュージアムツアー”を実施。10月中旬には「いせさき再発見」をテーマにした“ウオークギャラリーと音楽の夕べ”を開催。12月中旬には、行政職員を講師に迎えミニ講演会と忘年会を組み合わせた“すき焼きパーティー”、そして、3月中旬には地域住民や広瀬川を愛する市民等と共に河川愛護活動として“広瀬川クリーンと芋煮のつどい”を実施しています。

また、年間行事の合間を縫って講演会や各種学習会も随時開催しています。

○ウオークギャラリーと音楽の夕べ

中心市街地を舞台に展開するこのイベントは、私たちが最も力を注いでいる企画で、市制55周年に際し“ウオークギャラリーと「布」芸術”を開催したのが始まりです。“布”芸術では関礼子・吉村晴子二人展の開催と明治時代の擬洋風建築である黒羽根内科医院や足利銀行のシューウィンドウでの地元織物展示などを行いました。以後、ヤ

マトホールを主会場に森村西三展（鍍金工芸）や地元芸術家の紹介、個人コレクションの展示等行っています。ここ2、3年は“銘仙の街・いせさき”にふさわしく地元で伝統工芸の技を守り地道な職人技を迫及している「織物職人」にスポットを当て、多くの市民の注目を引きました。

また、会場スタッフの女性たちは着物を着用することで“銘仙織り出す伊勢



崎市（上毛かるた）を再認識するとともに「着物の魅力」を再発見し、日本文化の持つ美意識の奥深さに魅せられています。

“ウオークギャラリー”はスタンプラリー形式で自主企画展示や相川考古館、街中に住む絵画、草木染作家が自宅を開放しての作品展、毎年のテーマに沿った市立図書館の企画展等を巡り歩く企画です。同時に旧時報鐘楼（市重文）をはじめ、街中の文化財や近代建築等も地図に組み込み“ふるさと再発見”を目指します。参加することで芸術鑑賞のみならず、伊勢崎の魅力と地域づくりへの視点が芽生えることを期待するものです。

“音楽の夕べ”は神殿の彫物が見事な伊勢崎神社を舞台に演奏会を楽しむ企画です。市制五十五周年では行政の協力も得て伊勢崎神社裏



の道路を車両通行止めとし、鄭明子舞踊団による“韓国の舞踊と太鼓”の仮設舞台を作り上げ道行く人々を驚かせました。

以後、伊勢崎神社が舞台の演奏会が恒例となり、篝火も交え幽玄な雰囲気の中で催されます。楊宝元さんの中国琵琶、森村恭一郎カルテットのジャズ、高橋壤司さんのアメリカ民族楽器、大倉正之助さんの大鼓、アンサンブル・オ

ウルによるオカリナ等々、毎年企画に頭を悩ませながら情報と人脈を頼りに、自分たちも感動できる演奏会を目指しています。



また、平成12年の市制60周年には市民活動中核事業と認定され、旧時報鐘楼のライトアップを実施することができました。初めて点灯された時の美しさと感動を忘れることはありません。地域資産の活かし方の一つを提示できたものと自負しています。

○広瀬川クリーンと芋煮のつどい

伊勢崎青年会議所が、二十数年にわたり継続開催した河川愛護活動“広瀬川クリーン作戦”が平成7年で終了するとの話を受け、「市民で継続しよう」と引き継いだものが“広瀬川クリーンと芋煮のつどい”です。

中心市街地に接して流れる広瀬川、中でも市立図書館周辺は日常の散歩コースとしても多くの市民に親しまれている場所です。春の兆しを感じ始める3月中旬に、広瀬川を愛する市民、小学生、サッカー少年団の子供達、地区住民等と河川のゴミや空き缶などを拾い集める河川愛護



活動を展開しています。この際、ただ単に清掃作業をするのではなく、共同作業の後

のコミュニティ形成や情報交換等も行われるような“楽しい場”を提供しようとの意図で“芋煮会”や“ミニコンサート”をも組み合わせ実施しています。例年200人以上の参加者を得ており、伊勢崎の“春の風物詩”となるよう今後とも継続したいと考えています。

中心市街地の活性化は全国的な課題となっています。生活の場であり、交流の場であった中心市街地と私たちは今、

どう関わったら良いのでしょうか。街・人・歴史・・・、様々な視点から、立場から地域づくりを考え、実践して行きたいと思います。

(出典) 月刊 郷土文化誌「上州路」No. 333

特集 地域づくり団体最前線

(2002(平成14)年2月号)

～その後の活動～

街づくり市民ゼミナールは“ウオークギャラリーと音楽のタベ”を2004(H16)年までの10年間にわたり開催し、これらの経験は2005(H17)年の市町村合併後に開催される“光のページェントいせさき燈華会”の開催に大きく寄与している。活動は2007(H19)年まで続くが、以後は会員各自が「いせさき燈華会」や「いせさき銘仙の会」をはじめとするまちづくり活動に参加している。

なお、“広瀬川クリーンと芋煮のつどい”は継続開催し、2011(H23)年の東日本大震災の年のみ開催を休止したが、以後、

規模を縮小するもの(一社)伊勢崎法人会の支援のもと“広瀬川



クリーン”と名称を改め、地元企業やロータリークラブ、西部スポークラブなどの参加を頂き現在まで活動を継続している。

—— (受賞歴) ——

・「優良河川愛護団体表彰」

(群馬県・県河川協会、平成12年)

・「都市計画功労者表彰」

(群馬県都市計画協会、平成15年)

第16回 地域づくり団体全国研修交流会・群馬大会について

「認め合う力、響きあう心」をテーマに、第16回地域づくり全国研修交流会群馬大会が、2002（平成14）年2月15日（金）・16日（土）の2日間にわたり、県内五市町村を会場に開催されました。

☆大会テーマ「認めあう力、響きあう心」

多様化する価値観の中で、誰もが住みよい、生き生きとした地域づくりを進めていくには、お互いの存在や価値を認めあい、地域への想い、愛着、共感による横のつながりを広げ、それぞれの役割を果たしあっていくことが求められていることを大会テーマによって表現されました。



大会の企画・運営は、主に四つの分科会開催地（高崎、桐生、伊勢崎、榛名）で活動する30以上の団体を中心に、県と関係五市町村が加わった実行委員会で行われました。大会を通じて、県内で地域づくりに取り組む人達と全国の仲間たちとの多くの出会いが生まれました。



【伊勢崎分会】

（分会テーマ）

むかしのこどもたちから

みらいのオトナたちへ

○第1分科会「街はみんなのギャラリーだ！ ～中心市街地の楽しみ方～」



かつては生活の場であり、交流の場であった中心市街地。ここ数年来その衰退が全国的な課題となっている中で、活性化に向けて必要な“仕掛け”と“実践”を考えます。

（運営団体）街づくり市民ゼミナール

○第2分科会「パートナーシップで進める 環境まちづくり」

伊勢崎と周辺自治体で環境をテーマとした活動に取り組む諸団体の活動事例報告を通して、住民・行政・企業のパートナーシップや環境教育の進め方について考えます。

（運営団体）玉村町の環境を考える会、

殖蓮地区自然環境を守る会、堀下鯉のぼりを揚げる会

○第3分科会「遊ぶ！食べる！楽しむ！ ～「遊びの価値」について考える～」

市民と行政が協働してつくった「冒険遊び場（プレイパーク）」で、実際に子どもたちと一緒に遊びながら、子どもにとっての「遊びの価値（プレイ・バリュー）」を考えます。

（運営団体）環境ネット21、あずま塾、

群馬県環境アドバイザー連絡協議会伊勢崎ブロック

〈まちを舞台に① 1995年～2004年〉

ウォークギャラリーと音楽の夕べ

～いせさき再発見～

“ウォークギャラリーと音楽の夕べ”は、まちなかにある歴史資産「旧時報鐘楼」や「黒羽根内科医院旧館」（移転後、現在の「いせさき明治館」）、「伊勢崎神社」、地域の博物館「相川考古館」と芸術作品の展示が可能な民間施設



「ヤマトホール」や個人宅などをイベント会場とし、散策マップを片手にスタンプラリーを取り入れて”まち歩き”を促し、芸術や地域文化を楽しむことで、まちの持つ潜在的な魅力を再発見する企画です。

黒羽根内科医院旧館は、明治時代の議洋風の外観

を持つものの、閉館により内部をうかがい知ることが出来ないことから、芸術作品の展示とともに建物内部を見学できる貴重な機会でもありました。展示作品は小さな間取りの部屋を活かした「織物」などを中心に企画されました。

伊勢崎神社は“音楽の夕べ”の会場に利用させていただき、境内にいすを並べ、拝殿を背にライトアップされた幽



玄な雰囲気の中で演奏会を楽しみました。

これらの企画は専用の文化施設

がなくとも“街を舞台”に文化活動が可能であることを示す狙いもありました。出演者には地元の演奏家（JAZZやオカリナ）や主催者側が関心を持った演奏家（韓国舞踊、中国琵琶、二胡、太鼓や大鼓など）をジャンルに偏ることなく招き開催しました。

民間施設で多目的利用が可能な「ヤマトホール」は本企

画の主会場として企画展示とともに関連する講演会なども開催しました。

この企画で取り上げられた芸術展示として、“染め”や“織り”に関連した企画が多く、銘仙の街・いせさきにふさわしい展示が行われました。これらの展示をとおし、改めて「銘仙」の地域資産としての価値を実感させられました。また、地元に住む芸術家の自宅を開放した

だき、展示や交流を行うなど、様々な企画が繰り広げられました。



この企画の評価をスタンプラリーでのアンケート結果で見ると、「伊勢崎に住んで26年たつが、まだ知らない所がけっこうあった。（市内・20代・男性）」、「県外から来ましたが、あらためて伊勢崎の歴史を知りました。すばらしい町でした。（県外・40代・男性）」、「いつもいそがしく通りすぎてしまう我が町も良く見れば心温まる、そして、歴史のある町だなあと感じました。（市内・50代・女性）」、「とても楽しかったです。子供と歩いてみました。同じ市内で知っている所やこの機会でないとはわからなかったことが

多かったので良かったです。（市内・30代・女性）」など、企画で目指した「いせさき再発見」が伝わっていることがわかりました。





《ウォークギャラリーと音楽の夕べ ～主な開催企画～》

1995 (H7) 年 10 月 11 日 (水) ～15 日 (日) 開催

～市政 55 周年記念事業～

『ウォークギャラリーと“布”芸術』

- ・ 関礼子・吉村晴子二人展
- ・ 韓国舞踊と太鼓 (チョン・ミュンジャ舞踊団)

1996 (H8) 年 10 月 9 日 (水) ～13 日 (日) 開催

- ・ 油絵・版画 (福沢一郎、福田貂太郎、塚本茂ほか)
- ・ 堤梯一の藍染め
- ♪ 楊宝元の世界 (中国琵琶)

1997 (H9) 年 10 月 9 日 (水) ～13 日 (日) 開催

- ・ 田部井勤展
- ・ 小暮重男～草木染め展～
- ♪ 楊宝元の世界 (中国琵琶) 再び
- ・ 地図展
- ・ 街ゼミフォーラム・フリートーク
- 『地図で見るいせさき“きのう”“今日”“あす”』

1998 (H10) 年 10 月 9 日 (金) ～12 日 (月)

- ・ アフリカ諸部族の染色展
- ・ 東南アジア手織布の美
- ♪ 高橋壤司～アフリカを想う～
- ・ 講演会「民族芸術とアフリカの布について」

1999 (H11) 年

- ・ 『ひと』森村西三の世界
- ・ インドネシアの「染と織」～大竹コレクション～
- ♪ 森村恭一郎カルテット

2000 (H12) 年 10 月 26 日 (木) ～29 日 (日) 開催

～市政 60 周年記念事業～

- ・ 『銘仙』の世界
- ・ 『いせさき絆』～織物職人・斉藤定夫～
- ♪ 大鼓・大倉正之介の世界
- ・ 旧時報鐘楼仮設ライトアップ (10/22～10/29)

2001 (H13) 年 10 月 18 日 (木) ～21 日 (金) 開催

- ・ 『技』芝崎重一
- ・ 小暮重男作品展～草木染め～
- ♪ オカリナ演奏「土のしらべ」(アンナブル・オウル)
- ・ 旧時報鐘楼仮設ライトアップ (10/14～10/31)

2002 (H14) 年 11 月 16 日 (土)・17 日 (日) 開催

～Isesaki タウンぎやらりー同時開催～

- ・ 鍛鉄造形カワタタカシ展
- ♪ 二胡演奏会 (二胡・姜建華、中国琵琶・楊宝元)
- ・ 旧時報鐘楼仮設ライトアップ

2003 (H15) 年 10 月 25 日 (土)・26 日 (日) 開催

- ・ 仏像展～仏師 守谷智真造像展～
- ・ 新作銘仙展・小暮重男 草木染展
- ♪ JAZZ 演奏 (伊勢崎 S・M・C)

2004 (H16) 年 10 月 23 日 (土)・24 日 (日) 開催

- ・ 友禅染～石原清紫 作品展～
- ・ いせさきまちづくりサロン
- ・ まちかどオカリナ演奏会 (いせさき土笛の会)
- ♪ JAZZ ライブ～スタンダードジャズの唄と演奏～

(Sara & Kozo グループ)

<まちを舞台に② 2002 年>

Iseaki タウンぎャラリー

～黒羽根内科医院移転記念事業～

今秋、伊勢崎市を代表する近代建築物“黒羽根内科医院旧館”の移転が実施されます。引っ越し先は親玉本店北側の道路を隔てた場所です。移転は“曳き家工法”で行われ、その際には本町通りを建物が“移動”します。

移転後の洋館利用は今後の検討課題の一つであり、まちづくりに関わる市民団体等からこの機会を上手く活かそうという声が挙がりました。

そこで、多くの市民に洋館とその活用についての関心を持っていただけるよう、日頃より中心市街地周辺で活動している市民団体と商店会等が連携・協力したまちづくりイベントを開催することとなりました。

このイベントをきっかけに、伊勢崎市が“ほんとうの豊かさ”を感じられる街となるようお願いしつつ移転記念事業を開催しました。

黒羽根内科医院移転記念事業

“Iseaki タウンぎャラリー”

2002（平成 14）年 11 月 16（土）・17（日）に開催！

○開催準備

9 月 3 日(火)にタウンぎャラリー実行委員会が発足以降、記念事業開催当日までに 7 回にわたり実行委員会を開催しました。(9 月 25 日(水)の上毛新聞の「地域アイ」では曳き家移転とあわせ実行委員会の活動も紹介された。)



実行委員会の作業前半部は各団体の企画内容の確認・情報交換と事前配布用パンフレット

(よーかん準備号)の作成を進めた。14 の参加団体で開催する“タウンぎャラリー”パンフレットは開催 1 ヶ月前の 10 月 15 日付けで 5,000 部を発行。各団体をはじめ公共施設等を中心に配布しました。

10 月 19 日(土)には子どもセンター主催の「黒羽根内科医院旧館写生大会」が開催され、子ども達が移転前の姿を画用紙いっぱい描きました。

また、新聞各社が数回取り上げられるなど、市民への周知が行き渡り、これまでにないほどの関心の高まりが予想されました。

実行委員会の後半部は、記念事業開催当日の会場設営(テント設定など)や道路の交通規制に伴う交通整理員や駐車場への人員配置計画、オープニングイベントの企画等を中心に協議がなされ、イベント開催の大変さを実感させられました。

○開催直前

イベント開催のおよそ一週間前から黒羽根内科医院旧館のライトアップが、11 月 13 日(水)(第 7 回実行委員会開催・最終回)には旧時報鐘楼のライトアップも開始されるなど着実に準備が進みました。

イベント開催前日には市商業観光課職員が中心となり、テントやイス・机・交通規制標識などが搬入され、いよいよ当日を待つのみとなった。

○イベント第 1 日目

11 月 16 日(土)、いよいよイベント当日！

朝 6 時 30 分、交通規制の配置や会場設営のため当番スタッフが集合。

入念な打ち合わせを済ませ、いざ出陣！

交通規制も始まり、テントも完成、パンフレットや展示パネルも準備でき、9 時 10 分伊勢崎市民の歌「歩いてみたい」を会場に流し、オープニングイベントが始まる。

実行委員会代表の杉原みち子より開催までの経緯を報



告。矢内市長より挨拶の後、集まった

100 人を超す市民とともに市長のかけ声「イ

チ、ニッ、サン、“ダー”で曳き家移転作業が開始された。曳き家作業開始前から集まった多くの市民はジッと作業の進行を見つめ、「あっ、動き始めた！」RACの栗原さんの解説もあり、興味津々の様子。カメラのシャッターチャンスを逃さずとばかり「カシャ、カシャ」。

足利銀行の屋上では、報道許可証をもった新聞・テレビの取材も開始された。ちなみに、NHKのお昼のニュースにも流れ全国（海外にも）に、この移転作業風景が紹介された。（記念事業終了後も多くの人から「テレビで見たよ」の声を聞きました。）



オープニングイベントが終わると実行委員会スタッフはじめ各団体は持ち場へと散った。

本町通りではフリーマーケットが始まり、本部テントには多くの市民が訪れパンフレットを手に移転作業の見学に、各イベント会場にと足を急がせる。

RAC・工学院大学後藤研究室のテントでは黒羽根内科医院旧館関係資料展示が行われ、解説もあり多くの市民が興味深そうに見入っていた。

昼過ぎになるとテレビ放映の影響もあってか、人も一層増え、まさに“街に活気”があふれた。

一方、裏方の交通整理や駐車場整理は予想以上の混雑となり気の毒なくらいであった。



めいせんパレードでは、銘仙姿の女性達の姿が一際目を引いた。三越横では解説付きでファッションショーの様

相となり“銘仙の街いせさき”が彷彿され、男女を問わず熱い視線が満ちていたように感じられた。



移転作業は順調に進み、予定より1時間ほど早く交通解除となった頃、伊勢崎神社では二胡演奏会が開催されていた。

世界的な二胡演奏家姜建華さんと中国琵琶演奏者楊宝元さんご夫妻による演奏会では寒さにもかかわらずおよそ200人の聴衆の前で行われ、多くの人に感銘を与えた。

一方、移転作業は夜遅くまで続けられ、長い第1日目を終えた。



○イベント第2日目

第2日目のメインは移転作業開始前の子ども達による曳き家イベントでした。(この様子はテレビ取材されその夜放映されました。)このイベントに参加した子ども達こそ未来の伊勢崎を担う者達で、きっと心に残る思い出になったであろう。



2日目は各新聞社の朝刊にも掲載されたことから1日目同様に多くの人たちが集まった。

3,000枚の当日パンフレットはほぼ品切れ。スタンプラリーで粗品を持ち帰った人は300人。アンケート結果からは伊勢崎の街の魅力を十分堪能できた様子が窺えた。

○イベントを終えて

14の団体がそれぞれの持ち味を活かして連携して開催したIsesakiタウンぎやらりーは、二日間とも天候に恵まれ、大成功のうちに終わることが出来た。これまでには市商業観光課の協力はもとより多くの関係者のご協力無くしては終わることが出来なかったのは間違いない。その成果として伊勢崎の魅力を広くPR出来たものと信じている。

今後も魅力ある伊勢崎に向け力を合わせることの大切さを痛感した。

(参考) 黒羽根内科医院旧館移転記念事業

Isesakiタウンぎやらりー・リーフレット

(2002(平成14)年10月15日発行)

——— (受賞歴) ———

・「いせさき元気大賞」(伊勢崎市、平成15年)

《参加団体と主な開催イベント》

☆街づくり市民ゼミナール

- ・“ウオークギャラリーと音楽の夕べ”

☆本町百店会・本町共栄会

- ・スクラムフリーマーケット。

☆相川考古館

- ・伊勢崎銘仙 PART II 「めいせん和小物展」
- ・本町通り「めいせん」パレード

☆伊勢崎まちガイド

- ・伊勢崎市内散策ガイド、伊勢崎緋の手織り体験。

☆御殿山絵画館

- ・「岩崎日出巴・千江子展」

～心のふるさとを求めて～

☆伊勢崎市観光協会

- ・黒羽根内科医院旧館“ペーパークラフト工房”

☆NPO 法人 環境ネット21

- ・郷土料理の“煮ほうとう”提供

☆いせさき一番街協同組合

- ・一番街テント村

☆伊勢崎物産協会

- ・“甘酒”を無料提供

☆本町百店会かかあクラブ

- ・商店街・我が家の“お宝”紹介。

☆伊勢崎市子どもセンター

- ・黒羽根内科医院旧館写生画展

☆RAC (NPO 法人 街・建築・文化再生集団)

工学院大学後藤研究室

- ・子どもたちによる曳き家イベント
- ・黒羽根内科医院旧館関係資料展示、

活用計画案の展示

<まちを舞台に③ 2005年～ >

光のページェント いせさき燈華会

～地域文化の創造を目指して～

市民が主体の伊勢崎市誕生記念事業として2005（平成17）年10月22日（土）・23日（日）の2日間にわたり「光のページェント いせさき燈華会」を中心市街地にある“いせさき明治館”周辺を舞台に開催し多くの市民の参加を得ることが出来ました。ここでは、このイベントの背景や開催意図とその成果等についてまとめました。



I いせさき燈華会の背景

① 中心市街地は誰のもの？

本町通りはここ数年ですっかり風俗店が連なるネオン街となってしまいました。これらの原因の一つには大規模商業施設の郊外立地による中心商店街の衰退等も関連はあるものの、中心市街地のありようについては、多くの市民にとっても関心の深いテーマの一つではないでしょうか。

中心市街地をはじめとする「街の魅力」の一つには、「市



民が集い楽しめる場所」が求められているのではないのでしょうか。

いせさき燈華会の企画にあたっては、風俗店に負けない街の魅力づくりを始めようとの意向も底流にあり、これらを踏まえ、

中心市街地に相応しい地域資産を活用した「新たな地域文化の創造」を目指したイベントとして企画を進めました。

今回、新たなイベントの企画にあたっては、奈良市で行われている“なら燈花会”を参考にして、ロウソクの灯りを用いた地域らしさの演出により、「賑わい」と「癒し」という相反する欲求に挑戦することとなりました。

② 市民が楽しめる新たな“祭り”を！

初市・七夕・いせさきまつり・・・秋の祭りが無い中、今回、合併を機に市民が作る新たなイベントを「秋祭り」として定着できるよう意気込みをこころに秘め企画を進めました。

なぜ阿波踊り？そんな疑問もあることでしょうが、では、北海道札幌市で繰



り広げられる全国規模のイベント「よさこいソーラン」も疑問に思われでしょうか・・・大切なのは市民の持つパワーが発揮できる仕組みこそ大切なのではないでしょうか。

いせさき阿波踊りでは新たに衣装を揃えた約60人の市民が参加するなど予想を上回る多くの人たちが主体的に参加し、まちの賑わいを醸し出しました。

オリジナルな企画が大切なことは言うまでもありませんが、楽しいことや市民のパワーを引き出すためには他の事例を参考に真似することも時には必要ではないでしょうか。

もちろん、それだけで終わってしまっただけでは意味がありませんが・・・。

③ 成功の秘訣は市民団体相互の連携

この中心市街地を舞台とするイベント開催に至るまでの経緯に街づくり市民ゼミナールが中心となり15年間にわたって継続したまちづくりイベント(いせさきストリートギャラリー、ウォークギャラリーと音楽のタベ、Iseaki タウンぎゃらりー)があり、この間に培った中心市街地で活動する複数の団体との協力関係が下地としてあってこそ今回のイベント開催が可能となりました。



今回のイベントでは、中心市街地で活動拠点をもつ相川考古館、伊勢崎まちガイド、伊勢崎か

かクラブ、伊勢崎本町百店会、街づくり市民ゼミナールの5つの団体が主体団体として組織した「光のページェント実行委員会」により企画運営が行われました。

実行委員会での会議は6月末からイベント前日までに11回開催しました。夜7時から始まり、遅いときは11時を過ぎることも度々あるなど、新たなイベント開催の困難さを痛感させられました。

実行委員会による共同作業がこれらの困難を乗り越えられた源には、平成14年に行われた黒羽根内科医院旧館移転記念事業に際し初めて複数の市民団体が協働し、イベントを成功させた経験が活かされたもので、これが今回の成功の「隠れた秘訣」でもありました。

Ⅱ 伊勢崎のオリジナルイベントとなる

「光のページェント」

光のページェントは奈良や徳島をまねただけではありません。これまでの地域活動の蓄積を基盤にしたこの企画の底流には、地域資源を活用して伊勢崎らしさを発見し、伊勢崎らしさを多くの市民と共有することで伊勢崎市民のアイデンティティを育むことにあります。

① 旧時報鐘楼の活用 ～地域資産の再発見～

もっとも市民に親しまれている建造物の一つ大正4年に建造された市指定重要文化財「旧時報鐘楼」のライトアップはいせさき燈華会のイベント期間を超えて12月下旬まで行われます。

これにより地域資産の再認識を促すとともに本物のまちの資産の魅力に触れる機会となりました。また、高校生をはじめとする夜間通学時における北小学校周辺の安全確保も兼ねています。



② いせさき明治館の活用 ～地域資産の活用～

明治43年建築の市指定重要文化財「黒羽根内科医院旧館」は平成14年11月に全国の注目を集めた曳ぎ家移転を行い約2年間の修復期間を終え、今年5月に市民の財産として「いせさき明治館」として生まれ変わりました。この“まちの資産”を如何に有効に活用するかは市民に問われていることです。

より多くの市民に親しまれることの一助としてここを燈華会の主会場とし、今回は地域の伝統産業であった伊勢崎銘仙の伝統技から生まれた伊藤正義さんによる「刀刻」作品の展示を行い、多くの市民に織物関連技術の新たな展開の可能性を知っていただくことが出来ました。



③ “街が舞台” ～光でつくる回遊性～

旧時報鐘楼やいせさき明治館のライトアップに加え、織物会館北に光のイルミ



ネーションを設置することにより光による歩行者同船を確保し、これにより明治館前の通り（道路あいしょうとして「明治館通り」を提唱）や本町通り、そして伊勢崎神社裏の通り（明治館通りの延長）に加え、伊勢崎神社や足利銀行ポケットパークなど“街”そのものを舞台となるよう演出したものが「光のページェント」です。

また、歩く仕掛けとして本町通りには伊勢崎オリジナルと呼べる「きり絵灯ろう」を配置しました。これは、合併前の4市町村の各地域を代表する風景などを題材とした



「きり絵」作品を市内各地のきり絵愛好団体の協力により制作できたもので、市民が主役

のイベントとして華を添えました。

Ⅲ いせさき燈華会の成果

光のページェントいせさき燈華会の成果については、イベント開催前を含めたマスコミ各社の取材による新聞記事掲載、群馬テレビでの放映、インターネットHP掲載やブログ掲示等からの客観的な評価をすることができます。なかでも、11月25日付け上毛新聞ひろば欄掲載の投書「燈華会の定期実施を」では、「・・・伊勢崎は文化の薫りがまったくない街だ」と市外から来た人は必ず遠慮がちに言います。しかし、この光のページェントを見てもらえ



ば、その見方は真の伊勢崎の姿に触れていなかった、ということに気がつくと思

います。・・・」とあり、本企画の本質が深く理解されていることが分かり、これこそが今回行われた光のページェントの“評価”であると受け止めています。

明治館通りで行われた昼間の“賑わい空間”としての「いせさき阿波踊り」、夜間の“癒し空間”となった建築物等の「ライトアップ」やろうそくの灯りで彩られた「燈華会」に加え、夜の伊勢崎神社境内での演奏会は“賑わい”と“癒し”の融合といえます。



そして明治館で行われた企画展示「刀刻」～伊藤正義の世界～や相川考古館で行われた企画展示“めいせん”～いせさき銘仙とあしかが銘仙～とともに、2日間は街を舞台に“地域文化の創造”の可能性を垣間見ることのできたイベントとなったことが最大の成果であったと感じています。

（光のページェント実行委員会）

～その後の活動～

市民が主体の伊勢崎市誕生記念事業として2005（H17）年に始まった「光のページェント いせさき燈華会」は、街づくり市民ゼミナールが10年に亘り開催してきた「ウォークギャラリーと音楽のタベ」の経験を活かした企画イベントを現在まで13回（年）継続して開催され、まちなかで“秋の宵”を楽しむ恒例行事として定着しています。

開催場所はいせさき明治館と周辺道路や本町通り（歩道）としていたが、赤石楽舎広場の完成した2009（H21）年から明治館周辺と赤石楽舎広場の2会場とし、歴史資産のライトアップを活かした質



的向上が図られた。赤石楽舎広場では地元の子供達が主体となってイベント準備するなど、親子で楽しめるイベントとして地域住民の協力を獲得して開催している。

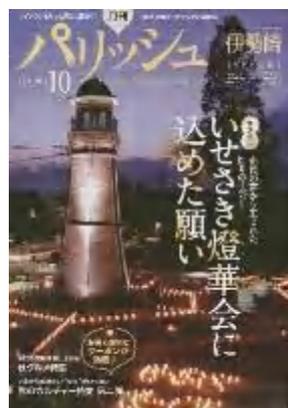
イベントの基本構成は、燈華会（ろうそくの灯りイベント）、音楽の夕べ（isesaki S・M・C出演）、企画展示（明治館、赤石楽舎）、阿波踊りとし、そのほかにチアリーディングやミニコンサートも随時開催している。なお、阿波踊りはこのイベントのために結成した地元の「燈華連」、応援には経験豊富な「上州高崎どですけ連」の参加を頂き質の高い阿波踊りが楽しめた。

燈華会で使用するするろうそく（カップ）の数は、2005(H17)年の第1回目は1,500個であったものが、2010(H22)年の第6回から2,500個となり、その他灯ろうを含め“約3,000個のろうそく”となり、車両を交通規制した道路上や赤石楽舎広場を飾っている。



灯ろうは、当初の合併前市町村の文化資産を題材とした切り絵灯ろうに加え、燈華会大灯ろうや銘仙柄を利用した銘仙灯ろう、竹筒灯ろうなど年々工夫を加え、イベントを盛り立ててきた。現在では銘仙灯ろうや銘仙の型紙を利用した灯ろうなどにより“銘仙の街 いせさき”のオリジナルイベントとして成長している。銘仙は地域資産として利活用しており、企画展示や灯ろうデザインに活用するとともに他事業との連携により銘仙関連事業の芽出しのイベントとしての役割も果たしてきた。

伊勢崎市誕生10周年記念市民協賛事業として開催10年目となる2014(H26)年は、開催終了後に関係スタッフの高齢化や一定の役割を果たしたとの事業評価のもと次以降の開催について中止を検討したが、秋の市民イベントとして定着しており「パリッシュ伊勢崎」の特集もあり、惜しむ声も多く、企画内容の再検討を含めつつ継続実施することとした。あらためて、これまでの活動成果やイベント内



容を精査する中で、地域資産を活かしたイベントとしての揺るぎない評価を確信でき、以後3回の開催(2017(H29)年は荒天のため室内展示のみ開催)を継続している。



———(受賞歴)———

- ・「いせさき元気大賞」
(伊勢崎市、平成23年)
- ・「群馬ふるさとづくり賞」
(群馬県地域づくり協議会、平成23年)





《いせさき燈華会 企画展示》

第 1 回 2005 (H17) 年

～伊勢崎市誕生記念事業～

- ・ “刀刻” ～伊藤正義の世界～

第 2 回 2006 (H18) 年

- ・ 芝崎重一の世界 ～絹の魅力～

第 3 回 2007 (H19) 年

- ・ 豊田共子の世界 ～織物のある暮らし～

第 4 回 2008 (H20) 年

- ・ 近藤蔵人 ～鉛筆画の世界～

第 5 回 2009 (H21) 年

- ・ 「斉藤定夫」展 ～緋の世界～

第 6 回 2010 (H22) 年

- ・ 森村高明写真展 ～流れる雲のように～

第 7 回 2011 (H23) 年

- ・ 長谷川良子 エコアートフラワー “花でつなぐ”

第 8 回 2012 (H24) 年

～いせさき明治館 100 年物語連携事業～

- ・ 銘仙でたどる着物 100 年史

第 9 回 2013 (H25) 年

- ・ 銘仙アーティスト 木島一雄メモリアル

第 10 回 2014 (H26) 年

～伊勢崎市誕生 10 周年記念市民協賛事業～

- ・ トrendは銘仙 -お洒落に MEISEN を-

第 11 回 2015 (H27) 年

- ・ 秋いろ銘仙展

第 12 回 2016 (H28) 年

- ・ 銘仙カラーパレット “秋”
- ・ 近藤蔵人 絵画展 「花のことば」

第 13 回 2017 (H29) 年

- ・ モダンアート銘仙展
- ・ 森村高明写真展 未知へのいざない

～更なるリアリズムを求めて～

<まちづくり団体② 2003年～>

いせさき街並み研究会

～まちづくりについて考え、できることから行動する～

イベント

昨年の3月の春休みの日曜日、伊勢崎の街中で親子を対象に、今は無き旧伊勢崎駅舎をスタートしたまち歩きと旧伊勢崎駅舎のペーパークラフトづくりのイベントが、いせさき街並み研究会の主催で開催されました。約50人が駅前に結集し、住んでいてもあまり知られていない地域の歴史等を子供達に楽しく案内し、後半は楽しくペーパークラフトづくりが行われました。



子供達にとって楽しんだことが、実は地域の歴史とつながっていて、いつしか子

供達の心の大切な記憶として刻まれ、大人になった時にふるさと伊勢崎への愛着と誇りの種となっている・・・私たちが目指したイベントの趣旨です。

楽しむ子供達の笑顔と合わせ、お母さんからもこんな言葉をいただきました。「子供がペーパークラフトづくりに参加したいというので申し込みましたが、実はまち歩きはいやだと思った。でも案内してもらいながら歩いたら興味深い話ばかりで、1時間半があっという間でした。自分たちのまちにこんなに大切な歴史があるということを知りました。ありがとうございました。」本当に心満たされるお母さんの言葉と笑顔でした。

設立趣旨

いせさき街並み研究会は、平成15年に市内の建築士で発足させました。垣は設立趣旨です。

『かつて地域の建物は、地域の気候風土に対応し、それぞれの地域性を育んできましたが、戦後の高度経済成長以降日本人の価値観や考え方は大きく転換し、経済第一主義、

効率最優先となり、様々な豊かさをもたらした反面、地域性の喪失など多くの負の遺産ももたらしました。しかし、21世紀に入った今、多くの地域において、その地域性の再生が模索されています。

「いせさき」も戦後の大きなうねりの中で変化を遂げてきましたが、まちづくりの核となる地域性はなかなか見えず、まちづくりヴィジョンは模索されている状況にあります。このような状況の中、「いせさきの地域性：いせさきらしさ」を模索するために、地域性の種と考える古い建物や地域文化財、地域の歴史的環境に目を向け、調査し、その特性を整理把握するとともに周知啓発活動等に努め、さらにそれらの活用の提案等を主体的に取り組んでいきたいと思えます。』

各種活動

様々なまちづくりへの取り組みの切り口がありますが、私たちが持つ「建築・都市」に関わる職能を生かし、地域に貢献することが、この伊勢崎を我が「ふるさと」として、次の世代の子供達に誇りを持って引き継ぐことにつながると考えています。



当会は任意の団体ですが、行政職員なども仲間に加え、現在会員は14名ですが、これまで■旧伊勢崎市内に残る大谷石蔵悉皆調査（旧市内には約28棟確認）■いせさきまちなか散策マップの作成（歴史資産、お食事処、お土産処の紹介マップの作成）■地域の銘仙の歴史と密接な関わりを持っていた旧伊勢崎駅舎の調査・資料作成および活用のためのまちづくりトークセッションの開催と活用案の作成等を行うとともに、学びとして、埼玉県行田市や茨城

県桜川市真壁町への視察研修等を行ってきましたが、常に地域に学び、地域でできることから行動する活動に、これからも取り組んでいきたいと考えています。

まちづくりへのメッセージ

古い建物のない街は、人格のない人間のようなものです。

人格とはその人が生きてきた証として、その人の中に形成された記憶の結晶です。この記憶の無い人＝記憶喪失の人は、自己確立が難しいように、同じく記憶喪失の街は、その街のアイデンティティを確立することが出来ず、そこに住む人の心を、満たすことが難しいのです。

ですから古い建物を大切にしてくれからのまちづくりに生かそうとする行為は、決してノスタルジーではなく、各まちがそのまちにしかできない地域固有のアイデンティティを確立したまちづくりを進めるためには、欠かすことのできない大切な要素であるということなのです。

(いせさき街並み研究会 代表 栗原 昭矩)

(出典) おっ! まっちー Vol. 65

(2011年5月1日、群馬県都市計画課発行)

～その後の活動～

「親子で楽しむまち歩きとペーパークラフトづくり」を中心に活動が展開され、2011(平成23)年7月「旧時報鐘楼」、2015(平成27)年3月「境赤レンガ倉庫」、同11月「田島弥平旧宅」、2016(平成28)年11月「旧群馬県蚕業取締所」と市内の代表的な近代産業遺産の建築についての調査とともに実測図をもとにペーパー



クラフトを作成し、イベントを通じ、将来を担う子供達に向けたまちづくり意識の喚

起を継続している。

また、2012(平成24)年10月には県内最古の美容

院といわれる昭和2年建築「村越美容院」の解体前に記録保存のための建物調査を行い、その成果や所蔵品等を翌年1月から「昭和の花嫁御寮展～県内初の美容院『村越美容院』～」をいせさき明治館で開催し、多くの来場者を得た。職能を活かしたまちづくり活動は様々な機関から評価されている。



—— (受賞歴) ——

- ・ 第3回ぐんま街・人・建築大賞
審査委員長奨励賞
(ぐんま街・人・建築顕彰会、平成27年)
- ・ 群馬県まちづくり功労者表彰
(群馬県、平成27年度)
- ・ まちづくり月間まちづくり功労者
国土交通大臣表彰
(国土交通省、平成28年度)
- ・ 日本建築士会連合会第9回まちづくり賞
(日本建築士連合会、平成28年)
- ・ いせさき元気大賞
(伊勢崎市、平成29年)

<まちを舞台に④ 2012年>

いせさき明治館 100年物語

～未来へ向けて建築 100年を寿ぐ～

開催期間：2012年7月11日～2013年3月31日まで

会場：いせさき明治館とその周辺

主催：いせさき明治館 100年物語実行委員会

後援：伊勢崎市・伊勢崎市教育委員会

伊勢崎市観光協会



1. 開催趣旨

「いせさき明治館」は、伊勢崎市の中心市街地に残る貴重な歴史資産として、また、市民のまちづくり拠点として多くの市民に親しまれています。

この建物は、かつて、今村医院として建築され、戦後もなく黒羽根内科医院となり、さらに伊勢崎市に寄贈後の平成14年に当地へ曳き家移転が行われました。修復に伴う建物調査の結果、屋根裏から「棟札」が発見され、明治45年（1912年）7月11日に上棟したことが明らかとなりました。

今年は、建築から100年の節目の年を迎えることから、多くの市民と共に「建築100年」を祝い、この建物と共に歩んだ伊勢崎のまちの歴史に思いを馳せ、これからのまちづくりの機運向上に向けた元気創出記念イベントとして「いせさき明治館100年物語」を開催します。

「いせさき明治館100年物語」は趣旨に賛同する多くの市民団体が連携して情報発信し、それぞれの切り口で行う各種イベントを応援すると共に、多くの市民の参加による元気なまちづくりを目指しています。



2. 実施した主な連携イベント

- いせさき明治館 100年アニバーサリー
未来を担う子供たちとともに、

いせさき明治館 100歳の誕生日を祝う

開催日時 平成24年7月11日(水)Pm5:00～

場所 いせさき明治館

主催 いせさき明治館 100年物語実行委員会

- オープニングセレモニー

(来賓：市長・教育長・観光協会長)

100年物語のオープニングはケーキカットで祝い、

明治館への感謝の言葉と祝慶状の授与を行った



- ミニコンサート・オカリナコンサート

『風の音に包まれて』（出演：いせさき土笛の会）



・松竹梅芭蕉句碑巡りバスツアー

伊勢崎・玉村にある20以上の芭蕉句碑、いせさき明治館100年を寿ぎ、「松・竹・梅」の句碑6か所を巡るコースで祝う

開催日 7月28日(土)

主催 伊勢崎まちガイド



・光のページェント いせさき燈華会

いせさき明治館や旧時報鐘樓の周辺を3,000個のろうそくの灯りで彩り、企画展「女性ファッション100年史」や阿波踊り、ジャズコンサートとともに幻想的な伊勢崎を味わう

開催日 10月20日(土)・21日(日)

場所 いせさき明治館・赤石楽舎周辺

主催 光のページェント実行委員会



・企画展「明治館と同年

～生誕100年の作家たち～

いせさき明治館と同年に誕生した作家たちの

作品と伊勢崎の古い街並みの写真を展示

開催日 10月27日(土)～11月25日(日)

場所・主催 伊勢崎市図書館

・企画展「いせさき明治館の魅力再発見」

建築的・歴史的価値や移転修復工事の様子、100年前のまちの様子などを紹介するとともに、大型紙芝居「創設旧時報鐘樓物語」(伊勢崎市景観サポーター)を上演

開催日 11月10日(土)～25日(日)

場所 いせさき明治館

主催 いせさき街並み研究会

・親子で楽しむ赤石周辺まち歩きと

ペーパークラフト作り

まちを歩けば知らなかった伊勢崎を発見し、

いせさき明治館や周辺の歴史を学び、

ふるさと伊勢崎への愛着と誇りを育む

開催日 11月18日(日)

場所 いせさき明治館とその周辺

主催 いせさき街並み研究会

・昭和の花嫁御寮展

～県内初の美容院「村越美容院」～

昭和2年の近代洋風建築「村越美容院」の解体前に行った記録保存調査の成果や所蔵した多くの花嫁衣裳等を展示

開催日 平成25年1月2日(水)～2月11日(月)

場所 いせさき明治館

主催 伊勢崎市観光協会、いせさき街並み研究会



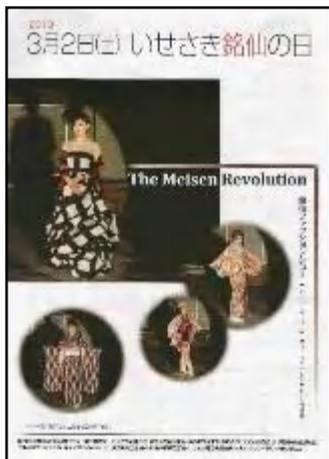
・銘仙ファッションショー

“THE MEISEN REVOLUTION”

開催日 3月2日(土)

場所 赤石楽舎

主催 いせさき銘仙の会



・伊勢崎の電話番号物語

電話 1 番から 100 番展

開催日 3月29日(金)～31日(日)

場 所 茂木園2F

主 催 多文化茶論「粹庵」



3. 事業総括

“いせさき明治館 100 年物語” は 2012 (H23) 年 5 月 23 日に準備会を開き、関係団体への参加を呼びかけ、6 月 15 日に市民団体 16 団体の構成により「いせさき明治館 100 年物語実行委員会」を立ち上げ、開催時期やオープニングイベント、各種企画内容の検討や協力体制等を協議し、上棟日であった 7 月 11 日にオープニングイベントを実施しました。

イベント周知に際しては「伊勢崎市観光協会だより」掲

載のほか、ポスター・チラシを作成配布により行った。

マスコミ報道にも随時取りあげられ、上毛新聞掲載では「街を見守り満 100 歳」(7/7)、「時の話題」(7/12)、「明治館 100 年の魅力」(11/18)、「大正、昭和の花嫁衣裳」(1/10)、「電話番号で町解説」(3/30) など、連携イベントに合わせた記事が掲載され、周知向上と来場者の増加に大きな力を得た。



また、“まちづくり”を考える情報誌「おっ! まっちい〜」(Vol.72、群馬県都市計画課発行)に“いせさき明治館 100 年物語”に向けて」を掲載、「群馬建築」(Vol. 1、群馬建築士会発行)に「いせさき明治館の魅力」が掲載されたほか、中心市街地活性化事例発表会(群馬県中部県民局主催)で「いせさき明治館 100 年物語」を報告するなど、開催趣旨を含めた情報発信がなされ、今後の市民主体のまちづくりへ大きく貢献できたことをもって総括とする。



《いせさき明治館 100 年物語実行委員会 構成団体》

- ・相川考古館 ・赤石まちづくりワークショップ ・いせさき街並み研究会 ・いせさき NPO 協議会
- ・いせさき銘仙の会 ・伊勢崎まちガイド ・一番街商店会 ・イルミネーション実行委員会
- ・かかあクラブ ・GO! 伊勢崎 ・J コミュニケーション ・多文化茶論“粹庵” ・西町商店会
- ・光のページェント実行委員会 ・本町百店会 ・焼きまんじゅう愛好会 ・伊勢崎市景観サポーター

<まちを舞台に⑤>

いせさき銘仙と明治館

～“銘仙の街”再興と市民まちづくり～

1. 銘仙の“魅力”再発見

大正から昭和初期にかけ隆盛を極めた「伊勢崎銘仙」は伊勢崎の伝統工芸品として産業的には終焉を迎えつつある中、市民による銘仙再発見から併用緋の復活まで、様々な動きが生まれています。



これまで、ウォークギャラリーやいせさき燈華会などの市民イベントに際し

企画展示に文化資産としての定番素材として活用されていきましたが、銘仙資源活用の画期は、2009（H21）年に伊勢崎市が行った「銘仙保存実態調査」にあります。

翌年には、銘仙保存実態調査の成果として「思い出の伊勢崎銘仙展」（伊勢崎市主催）が開催され注目を浴びました。

2. “銘仙の街”再興に向けて

これら銘仙再発見の機運を背景に、2010（H22）年3月「いせさき銘仙の会」が発足、同年、いせさき燈華会で最初の「銘仙ファッションショー」が開催されましたが、本格的な実施は、2012（H24）年に制定された「いせさき銘仙の日」（3月第一土曜日）からとなります。



これまで7回の開催（2012～）により、地元企業の支援協力も広がり年々大きな盛り

り上がりを見せています。

いせさき明治館では2012（H24）年5月より本格的な銘仙の企画展示がはじまり、これまでに30回を超える

企画展（年4～7回）が開催され、伊勢崎銘仙の魅力発掘と情報発信により多くの銘仙ファンの獲得と来場者の増加により貴重な観光施設に育ちつつあります。



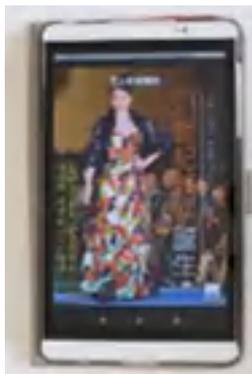
2012（H24）年は、いせさき明治館建築100年と相まって、“銘仙の街・いせさき”再興がスタートした記念すべき年となりました。

3. 併用緋の復活

銘仙の技法の一つで伊勢崎銘仙独自の技術が併用緋（経て糸と緯糸を先染めしてから織りあわせる）ですが、本格的な生産が途絶えてから約半世紀を経ており14の作業工程復活に必要な職人や使用機械・用具の確保など課題が多く、その復活は困難とされていました。

2016（H28）年1月、市民有志による熱意が実り『21世紀銘仙プロジェクト～いせさき併用緋の復活～』が始まりました。ここでは、2013（H25）年9月に赤石楽舎で行われた「The・銘仙 里帰り展」（上毛新聞社主催）により「日本きもの文化美術館」（福島県郡山市）所有のアンティーク伊勢崎銘仙で併用緋30点の展示による魅力の再発見が大きな転機となった（『21世紀銘仙』～いせさき併用緋を紡ぐプロジェクト～へのご賛同のお願い文』より）。

このプロジェクトでは、一般市民から募金（賛同者118人）獲得プロジェクト資金とし、3種類の反物が織られ完成した。各作業工程はホームページ『GO!伊勢崎』で動画と共に記録・公開され、また、上毛新聞社ではこれらの取り組み経過などを一般記事や連載「復活併用緋 21世紀の伊勢崎銘仙」、シルクカントリー群馬キャンペーンなどをまとめ、2017（H29）年5月に電子書籍（ニューズブ



ック)『「21世紀銘仙」誕生』が発行されました。

2018(H30)年3月には着物に仕立てられ、ロンドンのピクトリア&アルバート博物館に永久保存されることが決定するなど、ここ数年で最も注目を浴びる市民まちづくり活動が

緑り広げられ、「銘仙の街いせさき」に熱い視線が注がれています。

4. “銘仙の街”再興と市民まちづくり

いせさき銘仙の会や観光物産協会の協力により伊勢崎銘仙による地域活性化が広がっている。

銘仙を着てまちなかを散策する企画も複数開催され、また、市立四葉高校では銘仙体験学習が、市内の中学校では出前授業「ふるさと学習」により銘仙の魅力を伝えるなど、伊勢崎銘仙の魅力を後生に伝える活動も行っています。

いせさき明治館では、文化資産としての建物とともに、まちづくり拠点として、さらに、銘仙の活用拠点と観光拠点としてその施設活用が定着し、中心市街地の活性化施設としての機能を果たしています。これらの“銘仙の街”再興の活動は、行政とともに多くの“まちを愛する市民”により成り立っていることは確かであり、まさに“市民まちづくり”と言えます。

《いせさき明治館「銘仙」企画展示》

2012 (H24) 年

- ・バラ柄銘仙展(5/16-6/17)
- ・軽やか涼やか夏銘仙展(6/23-7/29)
- ・時代を映したビックリ和柄展(8/4-8/26)
- ・縞と矢羽根の銘仙展(9/1-9/30)
- ・銘仙でたどる着物100年史(10/13-11/4)

2013 (H25) 年

- ・昭和の花嫁御寮展(1/2-2/11)
- ・至宝のいせさき銘仙展(2/20-3/31)
- ・花と緑の銘仙展(4/20-5/19)
- ・水玉・幾何学アールデコ銘仙展(5/25-6/30)
- ・夏いろ銘仙展(7/6-7/28)
- ・エネルギー銘仙展(8/3-9/8)
- ・銘仙で菊見、紅葉狩りいかが(11/9-12/23)

2014 (H26) 年

- ・アバンギャルド銘仙展(1/2-2/16)
- ・至宝のいせさき銘仙展Ⅱ(2/22-3/30)
- ・銘仙ファッションショープレイバック展(4/5-5/11)
- ・あこがれのバラ柄銘仙展(5/17-6/29)
- ・銘仙型紙と伊藤正義の「刀刻」(7/19-20)
- ・ポップアートな銘仙展(8/9-9/28)
- ・トレンドは銘仙

TERUKO TAKAGI MEISEN WORLD(10/11-12/14)

2015 (H27) 年

- ・～新春を寿ぎ～縁起柄めいせん展(1/2-2/11)
- ・至宝のいせさき銘仙展Ⅲ(2/21-3/29)
- ・ポーラ柄&夏銘仙展(5/23-6/28)
- ・ジャワ更紗&更紗もよう銘仙展(7/4-7/26)
- ・おとこ着物の美学(8/1-9/6)
- ・秋いろ銘仙展(9/19-11/8)

2016 (H28) 年

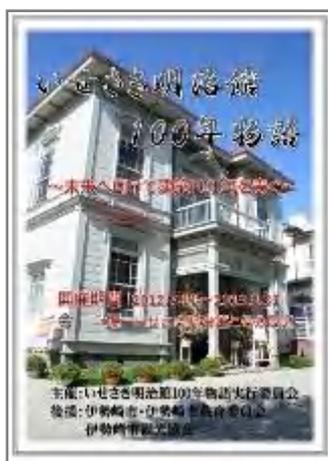
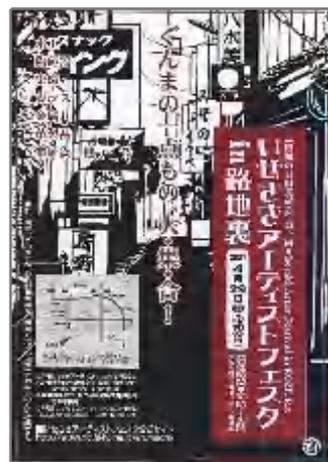
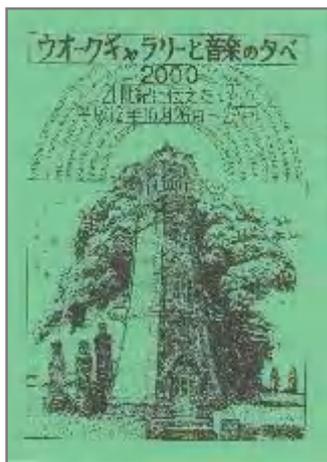
- ・緯総緋(よこそうかすり)の魅力(1/3-2/14)
- ・初夏 COLOR パレット(4/9-6/26)
- ・涼を呼ぶ単衣銘仙展(7/9-8/28)
- ・太織(ふとり)&大緋展(9/3-10/2)
- ・銘仙 COLOR パレット・秋(10/15-12/4)

2017 (H29) 年

- ・至宝のいせさき銘仙展Ⅴ(3/4-4/16)
- ・銘仙レトロモダン(7/1-8/13)
- ・晩夏を楽しむ単衣めいせん展(8/26-9/24)
- ・モダンアート銘仙展(10/1-11/26)

2018 (H30) 年

- ・至宝のいせさき銘仙展Ⅵ(3/3-4/15)



編集後記

“好きです！伊勢崎”を合言葉に、中心市街地を活動拠点(舞台)とする市民主体のまちづくり活動『街づくり市民ゼミナール』や『いせさき街並み研究会』のメンバーとして、また、“いせさき燈華会”をはじめとする各種イベントにおける主催者の一員として携わり、地域資産を活かした“まちづくり”に取り組んできました。

ひとりの市民として参加したまちづくり活動から得た経験は、地域に眠る「宝」の原石(=地域資産)を様々な視点から掘り起し、身の丈に合った工夫と改善による“まち磨き”を継続することの大切さを実感しています。

今回まとめたこの冊子が、新たな時代の“市民まちづくり”に寄与することを心より願っています。

< 中心市街地のまちづくり履歴 >
まちを舞台に
～いせさき市民まちづくりの軌跡～

(2018(平成30)年7月)
編集責任者 笠原 実
問い合わせ hzj00311@nifty.com

まちなか・まちづくり年表

- 1985(S60) 街づくり市民ゼミナール発足
- 1990(H2) 10. ストリート・ギャラリー開催
(街づくり市民ゼミナール、H6 まで毎年開催)
- 1995(H7) 10. 伊勢崎市制施行 55 周年記念事業
ウォークギャラリーと「布」芸術開催
(街づくり市民ゼミナール)
- 1996(H8) 6. 「街づくり旗づくり・
ときめきフェスタ」開催
(本町共栄会)
10. 「ウォークギャラリーと音楽の夕べ」開催
(街づくり市民ゼミナール、H16 まで毎年開催)
- 1997(H9) 3. 広瀬川クリーンと芋煮の集い開催
(街づくり市民ゼミナール主催、以後毎年開催)
6. 西部モール4店開店
12. メルクスが開店
(カインズホームを含めた
延べ床面積は合計約 6 万㎡)
- 1998(H10) 1. NHK クローズアップ現代
「商店街が消えていく」放送
3. 市道に愛称 13 路線を実施
(武家門通り呑流通りほか)
- 2000(H12) まちづくり市民広場開催
2. 相川家茶室「鴈華庵」県重文指定
7. 都市 MP 市民懇談会が街づくり提案
10. 初の旧時報鐘楼ライトアップ
(期間限定、街づくり市民ゼミナール)
- まちかどステーションオープン
- 2001(H13) 3. 北関東自動車道一部開通
(高崎 JCT~伊勢崎IC間)
5. いせさき御殿山絵画館オープン
5. お薦めスポット「まちてく2001」
発行(いし街みつげ隊)
5. 「三光町の歴史」出版
6. 伊勢崎21市民会議開催
(「市街地活性化」ほか)
11. 国民文化祭ぐんま 2001
民謡民舞の祭典・町田佳声展(文化会館)
9. 伊勢崎市都市計画
マスタープラン策定
- 2002(H14) 伊勢崎 21 市民会議開催
「街づくりと学校」
2. 地域づくり団体全国研修交流会
群馬大会開催
4. 違法風俗営業追放宣言(伊勢崎市)
11. 黒羽根内科医院旧館移転記念事業
Isesaki タウンぎゃらりー開催
- 2003(H15) 1. 上州焼饅祭開催
4. 「いせさき『街・ひと・元気』
リポート」発行(本町百店会)
5. いせさき駅前楽市開催
10. 群馬県地域づくり団体研修交流会
伊勢崎大会開催
11. 全国都市再生モデル調査に選定
- 2004(H16) 2. まちなかイベント
「ひと・まち・ゆめをつなぐ
昭和懐かし館事業」開催
3. 伊勢崎駅前シンボルロード構想策定
- 2005(H17) 1. 市町村合併
4. 県内初の景観行政団体へ(伊勢崎市)
4. いせさき明治館オープン
10. 伊勢崎市誕生記念事業(市民事業)
光のページェントいせさき燈華会開催

- 2007(H19)4.いせさきアーティストフェスタ (観光協会いせさき銘仙の会ほか)
in 路地裏開催
- 2008(H20) ※3.8 北関東自動車道延伸開通 (期間 7/11~3/31)
(伊勢崎IC~太田桐生IC間)
- 4.伊勢崎市景観まちづくり条例・
屋外広告物条例施行
- 5.伊勢崎駅舎調査報告会
いせさき街中まちづくりトークセッション
(いせさき街並み研究会)
- 5.相川家茶室「觴華庵」修復完了公開
- 9.伊勢崎市都市計画
マスタープラン策定
- 11.スマーク開店(延べ床面積約10万㎡)
- 2009(H21) 市民提案型協働まちづくり事業開始
- 4.赤石楽舎完成、
旧時報鐘楼ライトアップ(常設)
- 10.銘仙保存実態調査(伊勢崎市)
- 2010(H22) 1.「百円商店街」実施(商店会連合会)
- 1.明治館・赤石楽舎で
思い出の伊勢崎銘仙展開催
(伊勢崎市)
- 3.「いせさき銘仙の会」発足
- 3.親子で楽しむまち歩きと伊勢崎駅舎
ペーパークラフトづくり開催
(いせさき街並み研究会)
- 3.西町通り商店会で初のイベント開催
- 3.伊勢崎駅舎解体前に
「駅舎と記念撮影」(歩く街の会)
- 5.JR 高架・伊勢崎駅舎の供用開始、
北口開設・旧伊勢崎駅舎解体
- 2011(H23)3.東日本大震災
- 3.「赤石」まちめぐり散策マップ作成
(赤石まちづくりワークショップ)
- 7.親子で楽しむまち歩きと旧時報鐘楼
ペーパークラフトづくり開催
(いせさき街並み研究会)
- 2012(H24) 3.いせさき銘仙の日(3月第1土曜日) 制定
記念イベント開催
- 7.いせさき明治館 100年物語開始
- 7.いせさき明治館 100th
アニバーサリー開催
- 11.いせさき明治館の魅力再発見展
開催(11/10~25)
- 2013(H24) 1.昭和の花嫁御寮展
~県内初の美容院「村越美容院」~
開催(1/2~2/11)
- 2015(H27) 3.伊勢崎駅前インフォメーション
センター開設(ベシシア駅前店開店)
- 11.まちなか高校生フェスタ開催
- 11.まちなかイルミネーション開催
- 2016(H28) 1.21世紀銘仙プロジェクト開始
~いせさき併用餅の復活~(12月完成)
- 2017(H29) 3.伊勢崎駅前広場(北・南口)、
新伊勢崎駅前広場(西口) 完成
- 5.電子書籍(ニューズブック)
『「21世紀銘仙」誕生』
(制作著作 上毛新聞社)発行
- 10.「伊勢崎〇〇塾」開催
(伊勢崎市倫理法人会主催)
- 2018(H30) 3.大手町パティオ開園
- 3.第41回上毛社会賞に
「いせさき銘仙の会」が受賞
- 7.伊勢崎駅前南口広場で
base on the GREEN を開催

